

宇治群島家島での蚊の採集成績

野田伸一

鹿児島大学多島圏研究センター

Mosquitoes collected on Uttchima Island, Uji Islands

NODA Shinichi

Research Center for the Pacific Islands, Kagoshima University

衛生環境が整備された日本では蚊はうるさいという程度の存在であるが、発展途上国ではマラリア・フィラリア病・デング熱・黄熱・各種脳炎の媒介者として、人類にとっていぜんとしてたいへんな脅威である。1999年にニューヨークで蚊によって媒介されるウエストナイル脳炎が突然に発生し、2002年に患者数が急激に増加し、米国全体で4,000名を越す患者が発生し、240名が死亡した。日本においてもウエストナイル脳炎の侵入・流行が危惧され、一部の地域で蚊の分布調査が実施されている。鹿児島県本土および島嶼地域では、日本脳炎の患者数が減少したことから、蚊に対する関心がうすれ、ほとんど調査が行われていない。特に鹿児島県島嶼部では地球温暖化に伴い、蚊の発生数が増加したり、南方地域の蚊がその分布を拡大してくることが予想され、長期的な蚊の分布調査が望まれている。

今回、宇治群島家島で蚊の調査を実施したので、採集成績を報告する。家島は無人島であるが、避難港としての港が整備されていることから漁業関係者や釣客が上陸する機会がある。蚊幼虫の採集は港から南日岳（標高95m）の道沿いの林内で行った。家島では蚊幼虫の発生源となる場所は非常に少なかった。港近くに放置された飲物の空缶では蚊の発生は見られなかった。中腹から山頂にかけての水が溜まっている樹洞4カ所から蚊の幼虫が採集された。樹洞1（モクタチバナ）で6匹、樹洞2（クワ）で9匹、樹洞3（モクタチバナ）で2匹および樹洞4（モクタチバナ）で1匹の合計18匹であった。樹洞1・4の幼虫7匹はリバーズシマカ、樹洞2・3の幼虫11匹はシロカタヤブカであった。リバーズシマカは沖縄・奄美では普通の種類で、樹洞・岩穴のほか、クワズイモや芭蕉の葉腋・墓石花立・竹切株に発生する。成虫は林内で昼間人を吸血し、茂みの中で休息する。シロカタヤブカは主に樹洞から発生し小水域でも少数例知られ、成虫は林内で昼間激しく人畜を襲う。